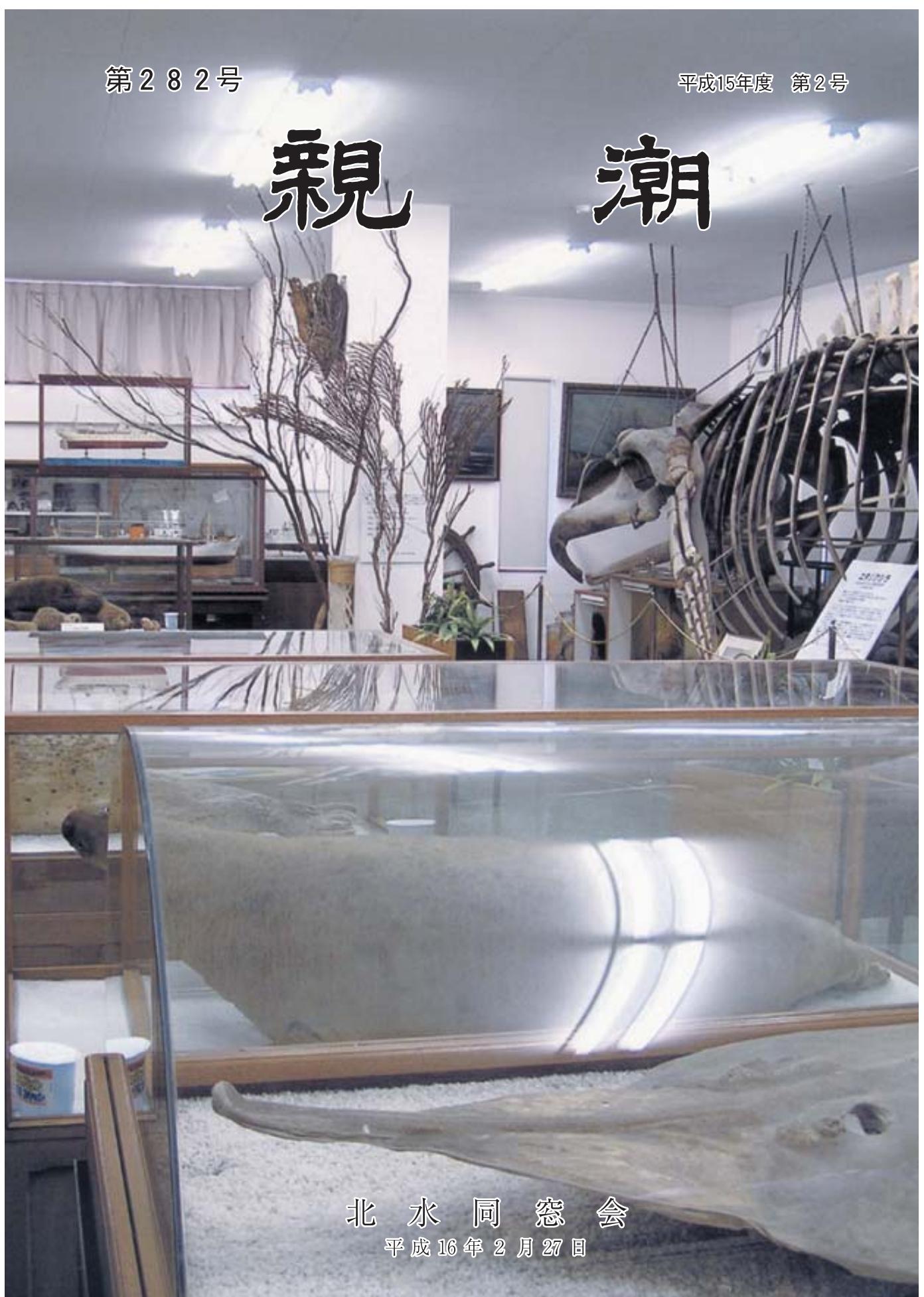


第282号

平成15年度 第2号

# 親潮



北水同窓会

平成16年2月27日

# 親潮(第282号)

## 目 次

### お願い

- 会費納入のお願い
- 「親潮」への広告のお願い
- 「親潮」・ホームページ掲示板への投稿のお願い

### 会員の受賞

山内皓平氏(44ゾ)	紫綬褒章受賞	足立 伸次(55ゾ)	…1
長谷川由雄氏(16後ヨ)	平成15年北海道功労賞受賞	三本管善昭(38ゾ)	…1
堀口吉重氏(20セ)	の瑞寶中綬章の受賞を祝い	高橋 喬(19セ)	…2
鈴木賢一氏(36セ)	平成15年度(社)大日本水産会水産功績者表彰	佐々木君男(36セ)	…3
赤峰健一君(61化)	、造船技術開発で国土交通大臣表彰	樋木 勇(特)	…3
平成15年度(社)大日本水産会水産功績者のご紹介			…3
平野亮一氏(35セ)			
鈴木賢一氏(36セ)			
間山郁三氏(25教ギ)			
寺本紀久氏(39セ)			
横田二美雄氏(31エ)			

### 寄稿

時代に遅れた野球部		橋本 賢士(学生会員)	…4
-----------	--	-------------	----

### 支部・会員だより

青春を甦らせる臥牛会		眞田 博美(28セ)	…6
北大水産学部二八卒業最後の同期会			
“卒業50周年記念・松前城の夢の跡 日本海追分ソーランラインの旅”	工藤 駿一(28セ)	…8	
上げ潮会札幌大会開催報告	伊勢 良一(26セ)	…10	
北水26年卒漁業科同窓会	寺田昌次郎(26ギ)	…10	
新制遠漁2期 寿洋会 宮崎大会	川越 政行(24エ)	…11	
北晨会神戸に集う(新制遠漁四期卒生と関西同志)	茨木 悟(26エ)	…12	
第14回臥牛会札幌定山渓大会に集いで	井原 肇(24セ)	…14	
北水同窓会 大阪府支部講演会総会および懇親会	川邊 一郎(平3ゾ)	…15	
北水会長崎支部例会報告	大坂 幸男(63ゾ)	…15	
昭和38年卒増殖学科同期会	川西 健吾(38ゾ)	…16	
34年卒の同期会報告	米田 義昭(34セ)	…17	

### 追悼

石黒正敏兄(42ゾ)の訃報	青木 義博(42ゾ)	…18
笛野正人君(22ギ)追悼	大山 公男(22ギ)	…18
マルハO Bの先達 徳丸 潮さん(10ギ)長逝せらる	窪田 光信(17ギ)	…19
檜山萬里君(38エ)の急逝を悼む	花村 剎巳(38エ)	…20
昭和39年入学の林 昭八君(43化)・野崎義行君(44化)の死を悼む	四方 純(43食)	…21
会員死亡通知		…23

### ご案内

新刊書の案内「スルメイカの世界」	桜井 泰憲(48ゾ)	…23
第64期「卒業30周年記念同窓会」のお知らせ		…24

### 学内ニュース

学位取得者と論文題目		…24
会員移動		…25
有朋自遠方來不亦樂乎		…25
表紙写真説明		…26
編集後記		…27
投稿規定		…27

## お願い

### ◆会費納入のお願い◆

北水同窓会の年会費（4,000円）の納入をお願い申し上げます。

本部の運営は、この同窓会費ですべて賄っておりますが、近年不況のためか会費の納入率が低下しております。会員の皆様におかれましては本会の運営維持のため今年度分からでもぜひお納め頂きたくお願い申し上げます。なお、過去の未納分は問いません。

また、昨年末に平成15年度北水同窓会会員名簿が発行されましたので、まだ入手されていない方は至急今年度分の会費を納入してくださるようお願い申し上げます。会員名簿は会費を納入された方に無料で配布致します。

会費納入の際には、本号巻末に綴じ込みの郵便振替用紙をご利用下さい。また、郵便局にてご自分で振替用紙にご記入される場合には、下記の振替口座番号および加入者名をご記入下さい。併せて郵便自動払込制度をご利用されたい方は、本部に自動払込利用申込書がございますのでご用命ください。すでに郵便自動払込の手続きをされている方は、毎年7月31日に引き落としになりますので通帳の残高の確認をお願い致します。

振替口座番号：02620-5-581

加入者名：北水同窓会

なお、会費納入方法のお問い合わせ、住所変更等のご連絡につきましては北海道大学水産学部同窓会（〒041-8611 函館市港町3-1-1、電話&FAX：0138-42-3681、E-mail：[hokusui@hotweb.or.jp](mailto:hokusui@hotweb.or.jp)）で承っております。電話受付時間は午前9時から午後3時までです。

### 同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

同窓会誌「親潮」への広告を募集しております。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募も歓迎しております。同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位による広告主の開拓を切にお願いいたします。広告は隨時受け付けており、広告料は親潮1年分について、以下のようになっております。

表紙裏面または裏表紙の両面

1頁 80,000円  
1/2頁 40,000円

普通頁

1頁 60,000円  
1/2頁 30,000円  
1/3頁 20,000円



# 北海道大学水産学部同窓会

Alumni Associate of Hokkaido University, Fisheries

## 事務局/OFFICE

〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1

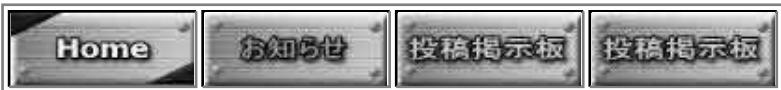
3-1-1, Minato-cho, Hakodate, Hokkaido 0418611, Japan

電話/Fax: 0138-42-3681

Tel/Fax: +81-138-42-3681

E-mail : [alumni.hokusui.fish.hokudai.ac.jp](mailto:alumni.hokusui.fish.hokudai.ac.jp)

Last update on 19 th of Jan. 2004, We are sorry Japanese only



## 「親潮」・ホームページ掲示板への投稿のお願い

ホームページ掲示板への投稿文書、写真等を募集しております。

同期会の呼びかけ、同窓会の報告、支部会の活動状況など、北水同窓生の交流の場として本投稿掲示板をご利用下さい。依頼文章・写真などは、下記メールアドレスへお送り下さい。なお、掲示板への掲載可否については、本ホームページ管理者において決定させていただきます。公的運用を目的とした掲示板ですので、個人的な宣伝活動、商業目的の宣伝活動、誹謗中傷記事などについては固くお断りいたします。

あわせて、機関紙「親潮」への投稿文も募集しております。投稿規定につきましては「親潮」巻末の投稿規定をご参照下さい。

ホームページに関するご意見・ご感想は  
[alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp](mailto:alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)  
までお願いします。

## 学術会議のお知らせ

大会名：第12回IIFET国際漁業経済会議 (IIFET 2004 JAPAN)

責任ある漁業とは何か？

開催日時：2004年7月21～30日

開催場所：東京海洋大学

問合せ先：鹿児島大学水産学部内 IIFET 2004 JAPAN事務局

Tel & Fax : 099-286-4270

URL : <http://www.arc-corp.co.jp/JIFRS/>

北水同窓会は本大会を共催しています。

## — ◇ 会員の受賞 ◇ —

### 山内皓平氏(44ゾ)紫綬褒章受賞 足立 伸次(55ゾ)

北海道大学大学院水産科学研究科教授、山内皓平氏は水産増殖学に関する優れた業績と学術の発展に寄与された功績により、本年度秋の紫綬褒章を受賞されました。北水からは故山本喜一郎先生以来の受賞で、大変名誉なことです。

山内先生は昭和44年水産増殖学科を卒業された後、大学院水産学研究科へ進学され、山本喜一郎教授の下で魚類の卵形成機構に関する研究を開始されました。山内先生は博士課程在学中、山本教授らと共にホンウナギにサケ脳下垂体を投与して催熟させて成熟卵を得、続いて人工受精によって孵化稚魚を得ることに成功し、その卵母細胞の発達過程およびその初期発生過程を世界で初めて示されました。その後、助手になられた昭和51年には、ニホンウナギの稚魚を2週間生存させることに成功され、その稚魚の発生過程を初めて明らかにされました。しかし、当時の方法では排卵率や受精率が低く、稚魚の育成には至りませんでした。そこで次に、卵および精子の形成機構を分子レベルで詳細に解析され、その研究成果からウナギの排卵率を飛躍的に向上させることに成功されました。その結果を受け、現在、三重の養殖研究所において、



稚魚を育てることに成功し、ついに昨年シラスウナギにまで育ちました。また、山内先生は、ウナギの研究以外にも、サケマス類の回遊および海水適応機構や多くの魚種の性分化機構も解析され、チョウザメやマツカワガレイの種苗生産技術の確立に応用されました。

これらの業績に対して、これまで日本水産学会進歩賞や日本農学賞などを受賞されています。地域社会活動としては、水産庁水産政策審議会委員、北海道水産業漁村振興審議会委員等、各種委員を歴任され、水産分野の振興と発展に大きく寄与されました。また、平成6年教授昇任の翌年から、水産学部長を4年間、引き続き評議員を3年間努められ、大学院重点化に大きく貢献されました。平成14年4月からは再び大学院水産科学研究科長・水産学部長に復帰され、新たな教育・研究改革に挑まれています。今回の受賞は研究室一同と卒業生にとっても誠に嬉しいことであり、山内先生の益々のご活躍を期待しています。

### 長谷川由雄氏(16後ヨ) 平成15年北海道功労賞受賞

三木菅善昭(38ゾ)



平成15年9月18日北海道開拓記念館において、同氏に北海道より「北海道功労賞」が贈呈されました。北海道では、道の経済、社会、文化等の発展に尽力され、その功労が特に顕著な方または団体に北海道功労賞を贈呈し、末永く顕彰しています。

同氏は昭和16年12月繩上卒業後、翌春北大理学部植物学科に入学し、海藻分類学を専攻し、北海道水産試験場、北海道区水産研究所で海藻の生態・増養殖研究に携わり、昭和54年秋、定年を待たず北海道区水産研究所を退官し、請われて、東京の

(財) 海洋生物環境研究所常勤顧問として原子力発電所の温排水と生物との関わり合い....所謂モニタリング....を調査する指針策定の仕事をされておりました。その間国際事業協力財団の進める中南米の水産資源調査、海外漁業協力財団の進めるアラスカにおける調査事業に協力し、海生研退職後は(株)大洋漁業ソ連東欧室の顧問として、ソ連で実施される栽培漁業の協力、さらに北朝鮮におけるコンブ養殖技術指導に5回も出掛られる等多彩な研究活動を続けられてきました。

同氏は在任中ご承知のように、コンブ類の生態や増養殖技術の研究・開発に取り組み画期的なコンブ促成栽培養殖技術を開発されるとともに、技術の普及に努められ、漁家経営の向上やコンブ加工原料の安定供給に貢献されるなど、北海道の科学技術や水産業の振興に多大の貢献をされました。特に促成栽培技術の公開によって養殖は、北海道南部及び本州太平洋沿岸各地に急速に普及し、コンブ養殖生産量を飛躍的に増大させ、養殖漁家経営の向上に大きく寄与するとともに、国産コンブ加工原料の安定供給を実現しました。

また水産庁北海道区水産研究所の所長として、北方海域における水産研究を推進する研究体制の構築に尽力される一方多くの国際学会でこの研究成果を発表するほか、科学技術庁資源調査会専門委員、北海道科学技術審議会委員として選任され、我が国及び北海道の水産行政や科学技術の振興に多大の貢献をされました。氏のこうした功績により既に、農林大臣賞、北海道新開文化賞、科学技術庁長官賞、紫綬褒章、勲4等旭日小綬章等を受章しております。

今回道として最高の賞を贈呈されたことは、むしろ遅きに失する感がありますが、とにかくおめでたいことで関係者の一人としてお祝い申し上げると同時に、同窓の皆様方と喜びを分かち合いたいと思います。同氏は未だお元気で、南茅部の養殖漁場で現地指導や講演等精力的な括躍をされております。コンブ研究者の少なくなったことを嘆きながら、漁民の相談相手になっております。

## 堀口吉重氏（20セ）の瑞寶中綬章の受賞を祝う

高橋 喬（19セ）

三重大学名誉教授堀口吉重氏は、平成15年秋の叙勲において瑞寶中綬章を受賞されました。

氏は昭和20年本学水産製造科を卒業、九大農学部水産学科に学ばれた後、鹿児島大学水産学部を経て昭和27年から平成元年まで三重県立大学、三重大学水産学部及び生物資源学部に勤務、水産生物学講座及び水産物保藏学講座を主宰され、昭和50年から4年間水産学部長に就任、国立移管直後の学部の整備充実に尽力されました。また学生部長として大学の管理運営にも貢献されました。

三重県出身の堀口氏は早くから真珠、海苔、魚類などの重要水産養殖植物に関心を持っておられ、それまでに研究例の乏しかった生化学分野を中心多くの優れた業績をあげられました。

我国で発明された養殖真珠は養殖技術面の開発に比べ、基礎となる生化学分野の解明は遅れていたが、氏はアコヤガイ、イケチヨウガイのCa、P代謝の研究に $\text{Ca}^{45}$ 、 $\text{P}^{32}$ を追跡子とする新しい手法を用いて、それまで、飼育水の介在で困難とされていた代謝物の定量分析を可能ならしめ、経口、非経口的に吸収された水中の溶存Ca、Pが真珠層に集積されてゆく代謝を明らかにした。また放射線照射によって真珠が黒色化することを見出し、その原因を究明した。着色は真珠の微量Mn化合物の着色に起因すること等多くの新たな知見を得た。

これら一連の先駆的基礎研究の卓越した業績と産業発展への貢献が高く評価され、日本水産学会賞を受賞されました。

このほか、海苔葉体を培養して、成長と微量元素、特にZnの効果、各成分と品質との関係、海苔の赤くされ病に対するアミノ酸の効果等を明らかにし、養殖魚類における水産医薬品の残留等水産品質学の分野で多くの優れた業績をあげました。

学外では、三重県水質審議会副委員長等を勤め、学識経験者として地域の発展にも尽力されました。

温厚篤実にして優れた識見と指導力をも持つておられる堀口氏は、多くの人たちの頼もしい相談相手になっておられました。公私にわたっていろいろとお世話いただいた者の一人として、受賞を中心お祝いし、今後益々のご健康とご多幸を祈念致します。

---

**鈴木賢一氏 (36才)  
平成15年度(社)大日本水産会水産功績者表彰  
佐々木君男 (36才)**

---

鈴木賢一君が平成15年度の大日本水産会水産功績者として表彰されました。表彰式は去る平成15年11月26日東京赤坂の三会堂ビル石垣記念ホールに於て桂宮宜仁親王殿下御台臨のもと取り行われ、全国の業界代表者47名と共に表彰の栄に浴されました。この表彰は明治23年に第1回表彰式が行われて以来今日まで連綿と続いている歴史と伝統のある水産業界最高の栄誉とされる由緒あるもので、同窓の先輩も多数受賞されております。鈴木君の表彰事由は日本水産(株)にあって捕鯨事業、営業、人事等各部門の要職に従事し水産会社の近代化並びに効率化に尽力するとともに、漁労事業や海運事業の縮小に伴う厳しい経営環境の下、労使関係の近代化と事業の再構築に心血を注ぎ、企業活動を通して水産業界の振興発展に寄与、又大水を始めとする各種団体の役員を歴任し、水産業界ならびにその関連する業界に多大の貢献があつたことによるものです。彼は昭和36年3月製造学科卒業後日水に入社、捕鯨部に配属、南氷洋捕鯨事業に13年間連續乗船出漁、又北洋捕鯨、基地捕鯨にも参加するなど海の男の憧れの職場で文字通り鯨濱けの日々を送っていました。しかし、捕鯨をめぐる国際環境は激変、共同捕鯨会社の設立の業務に転じ、捕鯨事業の最盛期とその結末を当事者として体験した貴重な歴史の生き証人となりました。自分の会社人生の原点は捕鯨事業と信ずる彼は15年間の捕鯨部時代を何よりの誇りとし鯨をこよなく愛する骨太の好漢であります。鯨を離れた彼は

その後営業、人事等の要職を歴任しつつ、取締役、常務そして代表取締役専務と経営の中核に昇り詰めました。又、漁船船主労務協会理事長、大水流通加工部会長、文部科学省学術審議会委員等各種団体の要職も歴任しました。現在彼は日水相談役として後進の良き助言者として、更には各種団体役員として活躍中であります。明るく闊達なスポーツマンである彼は同窓会活動にも熱心で現在東京支部長の重責を担われ我々同窓から頼りになる存在として信望を得ております。好漢のご自愛を願い益々の活躍を祈念し報告と致します。

---

**赤嶺健一君 (61才)  
造船技術開発で国土交通大臣表彰  
樋木 勇 (特)**

---

赤嶺健一君 (61才、石川島播磨重工業(株)技術開発本部 生産技術センター 生産技術開発部 課長)は、平成15年度の「海の記念日」(7月21日)にあたって、本邦の造船技術の向上に貢献があつたものとして、国土交通大臣表彰を受けました。同君は、永く海洋構造物の新しい防食・維持技術の開発に携わってきました。その中で、従来の防食法に代わって、海水中のカルシウムイオンおよびマグネシウムイオンを化合物として構造物上に電気的に沈着させる新しい防食法を開発し、その実用化に成功しました。この度、それが業界の技術向上に寄与したことが認められ、この表彰に結びついたものです。

**平成15年度  
大日本水産会水産功績者のご紹介**

このたび、北水同窓会会員の5名の方々が(社)大日本水産会の平成15年度水産功績者として表彰をお受けになりました。このことについて功労者のお一人の間山郁三氏(25教ギ)よりお知らせいただいた資料をもとにご紹介致します。

### 平野亮一氏（35セ）

信漁連の職員及び役員として漁協系統信用事業の発展にご尽力されました。特に金融機能の整備・強化を積極的に進め、他の金融機関との競争力を確保するために助成措置を講じ、道内漁協のオンライン・ネットワーク化を強力に進め、地域金融機関としての機能性及び利便性の向上に貢献されました。

### 鈴木賢一氏（36セ）

水産会社に勤務し会社の近代化、効率化、労使関係の近代化、事業の再構築、雇用の確保に貢献し、組織の活性化を推進されました。また関係団体の要職を歴任されその豊富な経験と見識をもって重要な役割を果たし、船員の生活安定・災害防止に尽力されました。

### 間山郁三氏（25教ギ）

教育者として水産に携わり水産教育の充実・発展、漁業後継者の育成に取り組みました。また教育行政においては実習船の集中管理方式を提唱し、産業教育振興法の改正に伴う施設・設備の整備に尽力されました。退職後も産業教育の改善・振興に実質的な推進者としての役割を果たされました。

### 寺本紀久氏（39セ）

鰯鮪漁業経営に携わるとともに地元関係団体の要職を歴任し地域行政の協力、商工会議所副会頭として地域産業活性に尽力されました。またまぐろ漁業基本問題検討作業部会長、かつお・まぐろ代船建造等円滑作業部会まぐろ分科会部会長、西経漁場検討作業部会長等を歴任し、まぐろ類の需要改善魚価安定、漁業者組織の強化に献身されました。中央団体の理事としてもまぐろ漁業の維持・発展に貢献されました。

### 横田二美雄氏（31工）

捕鯨船員として捕鯨業に従事し航海士・船長として活躍、鯨類資源調査やソ連船団オブザーバーにも従事するなど、捕鯨業の育成・発展に貢献されました。また、常に捕鯨船員の指導に尽力され、

現役引退後も小型船舶操縦士の講師を勤めるかたわら、新人教育訓練に従事されました。

(大日本水産会資料掲載順)

## — ◇ 寄 稿 ◇ —

### 時代に遅れた野球部

主将 橋本 穎士（海洋システム学科3年）

この度は北水同窓会幹事の先生のご好意により「親潮」に寄稿させて頂き、誠に有難うございます。今回、寄稿文を載せていただいたのも、廃部に陥っていた北水野球部を、三年という短い期間で立て直し、リーグ戦で三勝という成績を治めた結果が認められたものと思い、大変感謝しております。その三勝までの道のりを伝えたいと思いますが、様々なことがあって、書ききれるものではありません。そのため、何故わざわざ野球部を復活させてまで水産学部としてリーグ戦に出場したのか。また、出場までに何があったのか。そしてどうしたのか。その熱い気持ちを伝えたいと思います。

水産学部の学生は、函館に移行してきてから、本気で部活動を始める人は少ないようと思われます。というのも、母体が小さく人数も少ない、練習設備も乏しい、練習相手も少ないので、大会の会場は遠い、そして深刻な資金不足など様々な問題があるからです。そのため、クラブに専念する前に、一からクラブを組織立てないといけないという問題があると思われます。水産学部の学生も大学生であり、他の大学チームと肩を並べて闘いたい、挑戦したい、高い次元でプレーしたいという気持ちがあつて当たり前だと思います。移行して、函館のクラブに入るとそれが大変難しくなるのです。目標を低く持つしかできなくなり、モチベーションも低くなるのでしょう。今の学生は、そこまでするなら札幌の部活を続けるでしょう。もしくは、体を動かす程度のサークル活動に身をおくでしょう。しかし、札幌のことは大切な思い出とし、函

館の水産学部に移行してきたからには、そこで頑張るという姿が本来の水産学部の学生だと思います。それが真の男というものです。

しかし、野球部は違います。北海道大学水産学部という名前を背負って、一大学チームとして他の大学と対等に闘いたいという気持ちが強くありました。だから、特にリーグ戦出場ということにはこだわりました。例え、レベルの一番低い三部リーグに所属し、大会があるたびに旭川まで足を運ぶことになっても、それは自分達が決めたことであり、後悔はしませんでした。リーグ戦出場のためにはなんでもしました。ピッティングマシーン、ぼろぼろのボール、折れたバット、いらなくなつたネットなどを本学の野球部から譲ってもらい、わざわざ札幌からもってきました。ある部員の高校の割れていらなくなつたヘルメットを、テープで固定して使いました。まず練習は、内野の雑草抜きから始めました。ある程度野球ができる状態になったと思ったら、部員が九人いません。部員獲得のため、あらゆる学生にあたり、土下座までして入部を頼むこともありましたが、学生の反応は冷たいものでした。結局、試合だけ出てもらうという形でお願いして、泣く泣く妥協しました。さらに深刻な問題が野球部を襲いました。資金問題です。連盟の登録費と春、秋の大会参加費合わせて30万もの大金が必要となってくるのです。しかも部員が少ないため、たいした部費の徴収もできず、結局は個人に負担がかかるのです。また、一週間位の試合日程のため、遠征費もばかにならないくらいかかるのです。結局はOBのご寄付に頼るしか術がありませんでした。それでも個人の負担は大きく、バイトをしたり生活費を削ったりしてできる限りのことをしました。そして、やつとリーグ戦に出場することができたのでした。しかし当然ですが、初めてのリーグ戦は全敗という結果に終わり、今年の春季リーグ戦はひどいもので、全試合コールド負けという屈辱的な大敗を喫することになったのでした。野球を九回までする事がいかに難しいか思い知らされた瞬間でした。しかし、そのチームが、秋季リーグ戦では三勝という結果を残すことができたのでした。創部三年

目にしてようやく他の大学とともに闘えるチームになったのです。

振り返ると、ここまでしなくても野球はできると思うときがあります。何故そこまでこだわったのか。それは、単に野球が大好きというだけでなく、水産学部に誇りを持っているからだと思います。水産学部が函館に孤立していることを嘆く学生もいます。しかし、裏を返せば、孤立しているからこそ、学生同士の絆は生まれやすく、そしてより一層深いものになると思います。函館という町が、小さくてなにもないことも影響しているかもしれません。やはり、学生生活を送る上で、気の合う仲間をたくさん作ることは一番大切なことだと思われるし、なによりも嬉しいし、楽しい。それが結果として、水産学部への愛着、誇りにつながるのだと思います。自分達の水産学部への誇りはまさしく、最高に熱く、気の合う、チームメイトです。水産学部という旗のもと、このチームメイトで勝ちたいからわざわざ逆境からのスタートを選んだのでした。こういったクラブ活動はまさに、水産学部のこれから発展に直結するものだと思われます。しかも、学生の気質にも大変影響してくることと思われます。無気力な学生こそ、クラブ活動を通して熱い北水魂を目覚めさせるべきだと思います。そこで、OBや大学の方々の御協力が必要となってくるのです。水産学部には他にもたくさんの熱い学生がいて、もがいてはいますが、いまいち羽ばたけず、悲惨な状態であります。

学生とOB、そして大学が一丸となるときが来たのだと思います。共に頑張っていきましょう。

<公式HP>

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/8905/>

## - ◆ 支部・会員だより ◆ -

### 青春を甦らせる臥牛会

眞田 博美 (28セ)

平成13年5月に全ての仕事から足を洗い、専ら毎日が日曜日を満喫していた処、同窓の友人から声がかかり、北大水産学部（高水を含む）の卒業生たちでつくった臥牛会に入らぬかと誘われ、その年の11月に入会した。

臥牛会には囲碁を楽しむ趣味の会で、始まりは平成10年頃、昭和28年卒の有志数名が、昔の寮生時代のヘボ碁をなつかしんで集まつたのが発端で、当初は東京駅八重洲口の国際観光会館にあった碁会所の一隅で始まったとのこと。

現在会員は18名で東京付近に在住する者が多いが、中には焼津や福井の者もいる。

現在は東京駅八重洲地下街にある「いずみ囲碁ジャパン（旧称いずみ囲碁サロン TEL 03-5202-6093）」を根城としている。



いずみ囲碁ジャパンの例会風景

臥牛会は2ヶ月に1回の割で奇数月に開かれ、その都度出席者と相談の上次回予定日を決める習わしになっている。

この外に年に1回ホテルに泊り込みの懇親旅行を行なっており、昨年は7月9日（水）～10日（木）、三浦海岸の「マホロバマインズ三浦」で開催した。



懇親旅行会 対局風景 マホロバマインズ

当日は13参加され、総当たりで9日正午から10日正午まで連続で食事で入浴及び睡眠を除いて、全て対局に当たられるという文字通りハードな対局であるが、真剣な中にもなごやかさが感じられ、普段の生活では味わえない緊張感ある雰囲気は又格別である。

現在の会員の段級位別構成は次の通り。

七段	1名	二段	2名
六段		初段	5名
五段	1名	1級	
四段	3名	2級	1名
三段	5名	計	18名

本会員の段級位認定は持ち点制による、持ち点と相当段級位との関係は下表の通り。

標準持ち点	相当段級位	持ち点区分
287	七段	294～281
273	六段	280～267
259	五段	266～253
245	四段	252～239
231	三段	238～225
217	二段	224～211
205	初段	210～200
195	1級	199～190
185	2級	189～180
175	3級	179～170
165	4級	169～160
155	5級	159～150

この持ち点制度はユニークな制度で、対局者は夫々自分の対局カードを持ち、対局毎に勝てば1点加算され、負ければ1点減点となり夫々カードに記載し、新しい持ち点となる。

新人が入って来た場合、先ず本人の段級位の申し出を受け、持ち点を決める。例えば実力初段位だといえ、初段の標準持ち点205点からスタートすることになる。

又、対局する時の手合割（何子置くとか、コミをいくら、どちらが出すか）は双方夫々の持ち点の差を出し、次の手合割表からハンデを決める。

### 手合割表

先	二子局	三子局	四子局	五子局	六子局	七子局	八子局	九子局	コミ出し	
									黒から	白から
0	14	28	42	56	70	84	98	112	6目半	
1	15	29	43	57	71	85	99	113	5目半	
2	16	30	44	58	72	86	100	114	4目半	
3	17	31	45	59	73	87	101	115	3目半	
4	18	32	46	60	74	88	102	116	2目半	
5	19	33	47	61	75	89	103	117	1目半	
6	20	34	48	62	76	90	104	118	半目	
7	21	35	49	63	77	91	105	119	半目	
8	22	36	50	64	78	92	106	120	1目半	
9	23	37	51	65	79	93	107	121	2目半	
10	24	38	52	66	80	94	108	122	3目半	
11	25	39	53	67	81	95	109	123	4目半	
12	26	40	54	68	82	96	110	124	5目半	
13	27	41	55	69	83	97	111	125	6目半	

例えば、A君は三段だが、現在の持ち点は230点、B君は初段だが現在の持ち点は207点とすると、その差は $230 - 207 = 23$ 点となり、上記手割表中の23の縦欄の上を見ると二子局とあり、且つ又、横欄の端を見ると白から2目半コミ出しと分かる。

こうして対局の都度、最新の持ち点を基礎に手合割が決まる。

この方式はシビアで且つ公平なのが特徴である。俺は有段者で免状を持っているとか、定石に詳しいとかいっても、勝負に負ければ減点となり、格落ちすることもある。

それ故常に研鑽して相手に勝つ努力を促がされ、切磋琢磨の典型となり、将に青春そのものである。

こうして自分のもてる実力を結集して試合に臨む、それ丈に対局を終えた後は勝敗を超えて、互にすがすがしい気分になり、一度対戦すると、次回からは挨拶抜きで話がはずみ、親密な友情がはぐくまれるのも囲碁の特質かと思われる。

又、囲碁の勉強を始めると、毎日の生活の中で、時間の大切さを実感させてくれる。普段の生活態度を律する心構えが生まれ、そのことは精神面のみならず、健康にも効果的である。

独りで碁盤に向かい、虚心になって棋譜など並べていると一種落着いた気分になり、ほのかな幸せと、生甲斐を感じさせられることがある。碁の醍醐味であろう。

臥牛会発足以来会長を勤めて来た佐藤勝君（S28漁卒）が、昨年11月12日の例会で、一身上の都合で会長を辞退され、その後会長指名により次の3名の就任が決まった。

(連絡先)

会長 伊藤 準(32才) TEL047-391-2885

世話役 小高 洋(29才) TEL03-3390-7897

〃 小川法章(29才) TEL047-355-5461

尚、この機会に入会を希望される方がおられましたら、ご遠慮なく上記3名のどなたでも結構ですので、お電話戴ければ幸いです。

臥牛会費については原則として徴収していないが、例会の場合は、その都度参加者から「いづみ囲碁ジャパン」に支払う席料として1人当たり¥1,100をお願いしている。

又、懇親旅行会の際は、多少の変動はあるが、その都度ホテル代として概ね1人¥10,000程度を予定している。（交通費自弁）

今日囲碁は空前のブームで、特に小・中学生のファンが多く、又女性の愛好家が急増しているのも頗もしい限りである。



小・中学生の囲碁教室風景。於いづみ囲碁ジャパン

その広がりは今日世界的規模にまで発展し、プロ棋士の中には外国籍の者も多く、とりわけ隣国の韓国、中国、台湾には日本を凌駕する実力の持ち主が現われ、日本文化と自負していた我々には大きな衝撃と共に、何とか捲土重来をと期待しているところである。

終りに過日読売新聞（夕刊）岡目八目に掲載された東京女子大学林道義教授の記事にいたく感銘したので下記に紹介したい。

我々が永い間に秘めていた囲碁に対する思いの丈を遺憾なく吐露されたものと心から感服した次第である。

## 記

### 右脳開発に最適なゲーム

東京女子大学で囲碁部が今年で創立30年を迎えた。また囲碁の授業を始めて11年目である。

大学で囲碁を教えていると「囲碁って遊びでしょう？ 大学で教えるべきことなの？」と思う人もいるかも知れない。しかし囲碁の中には、学問的、文化的、芸術的な要素が沢山含まれている。囲碁はあらゆる知的要素の総合であり、脳のすべての力を組み合せつつ、最大限に駆使するゲームである。

こうした訓練を今の子供たちは家庭教育でも学校教育でもほとんど受けていない。対人ゲームをして「勝った！」 「負けた！」と目を輝かせて夢中になった経験が極めて乏しい、精神が生き生き

と高揚するという経験をしていないのである。

学校では決まった解き方で問題を解く訓練、家では解き方のパターンが決まったテレビゲームだけ。それでは自分で工夫したり、創造する喜びは味わえない。

ところが囲碁は相手次第だから、解き方は決まっていない。自分で考え創造していかなければならない。定石や布石のパターンがあるとはいえ、それとて相手がその通りに打ってこなければ役に立たない。ましてそこを過ぎれば無限の変化をはらんだ未知の世界である。

囲碁は空間の感覚を必要とし、又そこには図をイメージして考えなければならない。左脳も使うが、特に右脳を高度に使うゲームである。

大学生は受験勉強で左脳は訓練しているが、右脳は全く開発されていない。むしろ退化している。だから大学生になってから囲碁を習うと、とまどう人が多い。

偏った脳の使い方を正し、バランスよく組み合わせて使う訓練には囲碁は最適であり、幼稚園生から大学生にまで幅広く教育に活用されるようになると良いと思う。

### 北大水産学部二八卒最後の同期会 “卒業50周年記念・松前城の夢の跡 日本海追分ソーランラインの旅”

工藤 駿一（28セ）

平成15年（昭和78年）となり卒業50周年を迎えました。私共もそれなりの年齢を迎えた訳で誠に感慨無量であります。振り返ってみると卒業25周年を記念して第1回目の同期会を開催してから今回で13回目（東京・箱根・札幌・山形・網代・小樽・神戸・横浜各1回・函館5回）の同期会となります。その間螢雪の功を共に積み重ねてきた学友28名の方が逝去され、更に体調の不良を訴える同期生が多くなってきている現在、昨年の横浜での同期会においてはこのまま継続することが如何なるものか、どこかでケジメをつけたらとい

うことになり、それなら今年は50周年もあるし母校のある函館で開催しようということになりました。幹事会ではこれが最後だからどこか静かな宿で美味しいものを沢山食べてのんびりと語り明かしたいとか、楽しい観光をしたいとか、荷物になるからお土産品はいらないとか、色々の意見がありましたが種々検討の結果、観光は日本海追分ソーランラインの旅をしよう、記念品は参加者全員と今回は参加されなかったが今までに参加された方にも送ることにしようと計画をたてた次第です。記念品は特製の日本手拭にしました。

第1日目（6月13日）函館・湯の川観光ホテルに66名（内夫人6名）が集まり開会の運びとなりました。先づは物故者に黙祷を捧げたあと今回初めて参加された方に音頭をお願いし乾杯がなされ宴会に入りました。

当会には北水28年卒同期会の出席者名簿（所謂・闇魔帳）があって、今までの13回オール出席の方3名に皆勤賞の記念品（洋酒など）の贈呈があつて拍手喝采！（記念品のお酒は全て会員のお腹に収まった次第ですが）ご苦労さんでした。

「楽しい会は何回あってもよいのではなかろうか」これが人間としての心情でしょう。但し体力があればの話であって、加齢と共に行動が衰えてくるのも事実であります。この両者の狭間の中で「同期会の今後のあり方」が問われる訳ですが、これまでの皆さんとの意見を集約すると各地区毎、各学科毎の懇親会の場を基盤にして参加を募るか、パソコンなどインターネットにより親睦の輪を深めたらどうかなど結論が出ないまでも何らかの方向性が見られたのではないでしょうか。その他ご要望・ご意見のある方は今回の事務局（函館）へご一報下さい、最後の同期会を開催した事務局で犬馬の勞を執ります。

第2日目（6月14日）35名（夫人2名）を乗せた檜山観光バスは松前・追分ソーランラインの旅へと海峡線を松前へ向け出発しました。

松前一松前城・松前家墓所・松前藩屋敷・郷土資料館等の見学、城下町、交易町として栄えた歴史と文化が偲ばれました。

上ノ国一教育委員会の方のガイドにより松前家

の祖先の築いた夷王山勝山館跡や墳墓群の説明を受け、郷土館では数多くの遺物出土品が展示されており当時の繁栄を物語っています。ガイドされた方々に厚くお礼を申します。檜山の海岸線は生憎の雨で大島小島が見えず残念でした。

江差一開陽丸青少年センターの見学・機帆走軍艦の歴史、海底遺跡発掘状況を学び幕末における戊辰戦争終結の一面をみて感銘を受けました。

さて、熊石の宿は町立国民宿舎ひらたない荘で、あわびの里くまいしが自慢の郷土料理で大変美味しく私共に相応しい閑静なところであり、あわびの湯につかりおそらくまでよく飲み、食べ、語らい生命の洗濯をいたしました。

翌日は好天のもとバスは追分ソーランラインを南下し宿をあとにしました。昨日とちがって日本海の波の白さやさまざまな彩りをみせる海の色を楽しみながら乙部をすぎメークイン発祥の地厚沢部を通り、大野町きじひき高原のパノラマ展望台から墨絵ぼかしの駒ヶ岳、横津の稜線を眺め一路函館へと向いました。「有朋自遠方來不亦樂乎」函館では三三五五元氣で長生きしようと再開を約して帰路についた次第です。なお執筆にさいしましては同期の伊藤茂弥氏にご協力をいただきましたこと深く感謝申し上げ回想の記と致します。



## 上げ潮会札幌大会開催報告 伊勢 良一 (26セ)

さる10月6日、洞爺湖温泉に於いて、表記のクラス会を開催した。

旧制最後の卒業生と新制大学に編入した者とで成る会である。

クラス会を終わりにする先輩、後輩もあると聞く中で、この様に2年に一度の楽しいクラス会を開催でき、健康と安泰な幸せを感じ合い、喜びに浸った会であった。

天候も含め100%以上の盛会で、参加者は大満足。幹事冥利に尽きる思いであった。

とは言え、もう73歳を過ぎ、参加者も会を重ねる毎に少なくなり、欠席者からのメッセージも体調不良を訴える者も居て、一抹の寂しさは拭えぬところ。もう・をまだ・に置き換えて、2年後の焼津大会、4年後の兵庫県城崎大会と繋がって行くよう、老軀に鞭打って頑張りたいと思う。

当日は洞爺パークホテル天翔の対応も良く、湖上花火大会は一同感動。翌日の湖上遊覧はこの上は望むべくもない好天に恵まれ、羊蹄山、昭和新山が、色づきはじめた紅葉とともに湖面に映えて上げ潮会を祝福してくれた。

同窓のクラス会の発展を願って報告に替える。



2列目左より（前列は奥様）

穴澤、鈴木、糸井、安達、小林、武藤、増田、尾崎。

3列目左より

佐藤、宮澤、田岸、長澤、真壁、大上、岩本、廣田、石田、伊勢。

## 北水26年卒 漁業科同級会 (幹事) 寺田昌次郎 (26ギ)

去る10月20日、日本文明開化の窓、横浜に同級会を開催した。出席者は、九州伊万里より花城勝也氏夫妻、北海道札幌より前田五郎氏、田村昭吾氏、函館より橋本幸二郎氏、鈴木信夫氏夫妻、静岡より荒井栄一氏夫妻、内山和夫氏と私達夫婦の12名でした。

18時ホテルメルパルクに集合、18時30分横浜中華街の唐慶飯店本館にて宴会となり、幹事挨拶、他界者の冥福を祈り、黙祷、欠席者の近況、コメントを報告、花城氏の乾杯音頭により懇親会に移った。料理は四川料理で鮑入りふかひれの姿煮、エビのチリソース煮は材料を吟味し、チリソースと四川トウバンジャンで炒め香ばしさとピリッとした刺激に対し、味にうるさい内山氏が美味しいと満足感を表明した。飲み放題に対し、酒量の方は皆年齢を考えてひかえめであった。内山氏より次回開催について提案があり、田村氏から、2・3年後と言わず来年函館でやればとの意見が出て、橋本氏より、来年6月函館ですることに集約し、全員賛成する。また9月21日故倉本氏の追悼会を20余名で行った旨報告があった。

幹事をしてこの一年を振り返るといつも同級会に出席の安達孝男氏、佐藤紀三男氏、吉田昭喜知氏、川上 弘氏が体調を崩して欠席となり、木村順治氏、安達欣一氏、苅部準一郎氏は、同級の諸氏に逢えることを楽しみに、治療に専念してきたが、結局出席出来なかったこと、「一朝病に臥し、相識る無く、十月秋の行楽誰が邊に在る…」と人生無常をつくづくと感じました。

20時30分過ぎ一同ほろ酔い機嫌となり宴会終了し、氷川丸の繫留してある山下埠頭まで歩き、夜風汐風に吹かれて、オールドバーを飲み乍ら盡きぬ話をし、22時過ぎにホテルに帰った次第である。

翌日は朝食後、次回の再会を約し散会した。

後列左より

鈴木、前田、橋本、花城、荒井、寺田



前列左より

内山、田村、荒井夫人、鈴木夫人、花城夫人、寺田家内

## 新制遠漁 2期 寿洋会宮崎大会 川越 正行 (24エ)

平成15年9月16、17、18日の2泊3日、台風14号と15号の間、幸運と快晴に豊まれて、寿洋会宮崎大会が開催されました。アッという間の思いでしたが、今回は宮崎在住の山崎兄ご夫妻のご尽力で、それはそれは素晴らしいクラス会でした。

出席者は山崎夫妻、高橋夫妻、岩井、船水、室澤、渡辺静、安井、松浦、富井、舛田、川越の13名。色々な方法で16日16時、海が目の前に広がる青島パームビーチホテルに集まりました。荷物を置くと早速、美しい海浜沿いを2軒歩き、青島見物に、鬼の洗濯岩と呼ばれる波状岩の光景にビックリ、先ずは青島神社にお参りして、今回の盛会を祈念致しました。久し振りの会合、宴會は18時より始まり、北海道よりはるばる参加の岩井兄に乾杯の音頭をとって戴き、焼酎、清酒、ワイン、ビールと並べると共に、当地自慢の料理が次々運ばれまして、満足満足の顔が揃っていました。2次会も23時頃まで続きましたが、明日を楽しみに床につきました。翌日は朝食後、貸切バスにて8時30分出発16時30分まで、堀切峠→鵜戸神宮→平和台公園→綾酒泉の杜→綾大吊橋→えびの高原→霧島温泉（霧島国際ホテル）のコースを楽しみました。

山崎夫妻が交互にバスガイドを担当して戴き「あちらに見えますは」「こちらに見えますは」と午前中は海岸を午後は山中を走りました。堀切峠の車窓からの眺めは、洗濯岩だらけで、命の洗濯をした気分になりました。鵜戸神宮は神武天皇の父君が祭神とされている、本殿が洞窟の中にある珍らしい処でした。その後130万本のサボテンが群生するサボテン園に少し立ち寄り、平和台公園へ、八絃一字の文字が刻まれた、昭和15年建立の大きな塔を見上げながら、私は空腹の昔を思い出しましたから、情無い気持ちでしたが、当時の粗食が現在の高齢社会を築いているとか、苦あれば樂ありの諺に慰められていました。今回特筆すべきは綾酒泉の杜、焼酎、清酒、ワインの試飲コーナー、15種類ほど並べてあり、飲み放題、諸兄皆品評会の審査員になった様な顔をして、真剣に味っていまして、こんな時は眞面目な高水生の面影が見られるから不思議です。試飲は良かったのですが、次の綾大吊橋、地上142米、長さ250米の世界一の歩道吊り橋、眞面目な試飲がこたえたのか、少々千鳥足氣味の往復でした。天孫降臨の地、高千穂の峰1574米の端正な山容を眺めつつ、まぶしい緑と澄んだ青空がさわやかな、えびの高原を快走、霧島国際ホテルに到着しました。

今夜ははるばるマニラからやって来た松浦兄に乾杯の音頭を願い、シャブシャブ料理に舌鼓をう



後列左より

岩井、安井、舛田、富井、渡辺、川越、船水

前列左より

室澤、山崎、山崎夫人、高橋夫人、高橋、松浦

ちました。本日は2日目と言う事で、2次会も早めに飲酒もほどほどにして、お休みしました。

翌日は9時出発の貸切バスで、まほろばの里で陶芸を見物、まほろばとは理想郷の意味でした。天孫降臨のにぎのみことが祭られている霧島神宮に参拝、焼匠工房GENでこれが本当の焼酎を試飲して、昼食会で締めくくりました。すぐ帰る者、ゆっくり帰る者、色々でしたが鹿児島空港で解散しました。来年も元気で逢いましょう。山崎夫妻に感謝致しつつ、全員意気込んでいた。

---

## 北晨会神戸に集う (新制遠漁四期卒生と関西同志)

茨木 悟 (26エ)

---

今や昭和一桁生まれのお爺ちゃんは社会の先輩格とも言えるのでしょうか。ちょっとした集まりに出ても長老格で、戦争を知らない人達が幅を効かせています。そんな連中が神戸に集まりました。話の発端は平成13年10月10日、昭和26年卒各科合同の同期会が函館市内ロイヤルホテルで行われました。卒業後50年を経過し、次第に参加する者が減少する中でこれを最後の会にしようと催されたものでした。幹事の方々の労有って、歌有り、踊り有りの賑やかに楽しく、正に最後の会に相応しいクラス会でした。

そんな中で誰と無く、最後にするには寂しい、有志だけでもいいから2年後に又やろうと言う話になり、2次会で遠漁卒の前田辰昭氏(北大教授)から、一度関西でやりたかった、関西の連中どうか?計画しないか?と発案有り。関西出身7名中5名が出席した中で「では、引受けよう」と気安く受諾したのが発端というわけです。

年月の流れは早く2年というのは“あっ!”という間、頭の回転が鈍くなつた今日この頃の事、ああやつて、こうやつてと思い巡らせるばかりで計画も頭の中だけ、やつと2月に遠漁出身の4名が会合し、本格的計画を軌道に乗せることになりました。何しろ皆70歳を越えた者、年金生活者ば

かり、如何に経費を安く豪勢で、便利で雰囲気の良いところ。寒くも暑くも無い時期、遠方から参加する者の事を優先に考えていく要有利。などなど試行錯誤しつつ、結局、神戸の山手に位置する地方公務員共済施設“北野プラザ 六甲荘”で、10月21日(火)に開催することを決め、早速予約を申し込み、第一歩を踏み出した次第です。

2月には全員並びに他科の有志に開催概要案内を郵送し参加者を募りました。改めて7月に入り参加予定者に対して正式な開催計画を旅案内のパンフレットを同封、参加の確認をすることになりました。結局、参加者は遠漁卒16名、同御夫人1名、関西同志3名、計20名が最終参加予定となりました。遠漁は、昭和26年に席上課程終了時、総員47名でしたが、すでに亡くなった同僚13名、住所不明2名、従つて残り連絡した者32名でしたが、寄る年波身体の調子が悪く出席出来ない者ほとんどで不参加(現役バリバリも居りますが)16名、残りが元気者16名となった次第。ですから総員のうち、約1/3が物故、1/3が就業者、体調不良者。残り1/3が出席と言うことですから、年令的にも、遠隔地での開催に関わらず予想以上の関心と期待の高まりに幹事(佐多、山本、山中、茨木)としても大いに熱が入つたものでした。既に亡くなった同僚を憶い、療養中の労苦を気遣い、健康で過ごしていることに感謝しつつ、慎ましく心の通いあう残り短い人生の楽しい想い出になる様なひとときになればと、具体的な計画に入り、予定どおり変更なく皆の集まりが出来ます様祈りながらの時の経過がありました。

あいにく当日は神戸地区に雨が降りましたが、これは亡くなった者の惜別と心ならずも参加出来なかった人達の悔し涙であり、参加者のうれし涙の現れと憶いつつ、4時間前の午後2時に受付準備と受け入れ態勢を整えるため幹事が集まりました。豈図らんやすぐに三々五々集まりはじめ、早くからアチコチで挨拶の交歓が行われました。卒業後始めての再会も多く全然顔が判らず戸惑う場面が何組か見受けられました。其れもその筈20才前半代での学生時代から今や70才を過ぎ、お互に幾多の辛苦を乗り越えてきた強者、身体全体に

染込んで来た結果ですから当然のことではあります。

定刻、午後5時30分、全員の記念写真撮影、あと浴衣に着替えて、6時司会者（佐多）の開会宣言前田会長の開会あいさつに始まり、最遠方参加者岩間氏の音頭で乾杯、宴会開始となりました。

歳はとれども、さしもの強者揃い酒量の弾むこと、幸いにして飲み放題、気にせず飲み干しました。それでも流石は教養ある者ばかり、羽目をはずす者なし。アチコチで回顧談に花を咲かせ、あつという間の3時間。幹事（山中）のそろそろ中締めをしようと挨拶が有り、「校歌」、「寮歌」、「逍遙歌」を合唱し、引き続き「同期の桜」を、声高らかに輪を組みながら謳歌し、益々意気盛んなところを見せていました。これが集まりの最後になるのか？とややしんみりした中、「いつまでも絶えることなく 友達で居よう 明日の日を夢見て 希望の道を 空を飛ぶ鳥のように 由由に生きる 今日の日は さようなら また逢う日まで 信じあう喜びを 大切にしよう 今日の日は さようなら また逢う日まで」と本田路津子歌う曲が流れ、あと、共に合唱して一次会を終えた。

その後、関西同志を代表して吉澤氏（養殖）が、会の発展と皆の幸せを祈念して、万歳三唱。何回やっても良いと細川氏（養殖）、佐伯氏（製造）からも音頭がとられ二度目の万歳三唱、名残りを惜しんだ。

次に、会場を部屋に移し、全員がまた集まり、今度は畳の上で二次会を始め、裸の付き合いで2時間を費やし、疲れはじめたところで各自部屋に帰り、睡眠に入った次第。何しろ50年近い時間の空白を埋める話題は尽きるところなし。一夜では物足りない思いを強く残した。

翌日は、西宮の酒處のお土産袋を抱え、奥方へのおみやげ代を項戴して、それぞれの計画に従つて行動した。神戸－奈良－京都－滋賀－三重を廻った組、姫路－神戸と行動した組、六甲山に登った者等々この時とばかりに旅を満喫する姿に、幸せを感じさせた会合でした。

年々参加者が減少する中で、今回もまた次回開催の話題が誰ともなく沸き出し、来年（平成16年）

関東で実施することで幹事投が決められた。

何れにしても、このような事は健康ならではのこと、現在の健康に感謝し、それぞれが充分自愛することを誓いあった会合でした。

「今日の日は さようなら また逢う日まで 信じあう喜びを 大切にしよう」  
の歌詞の様に、一期一会の精神と変わらぬ姿での再会を楽しみにして、また精一杯生き抜きましょうと期しつつ、一筆まで。



(敬称略)

細川 山本 佐多 山中 萩木

和彦 清一 進 勳 悟

佐伯 江口 深谷 中里 瀬戸 福田 神山御夫人  
照明 良策 典雄 昭一 靖之 節雄

吉澤 岩間 前田 中村 高橋 田中 神山

和夫 寿郎 辰昭 宗孝 貞弘 大 茂世

## 第14回臥牛会 札幌定山渓大会に集いて

井原 肇 (24セ)

紅葉は時期的に少し早いと思われたが、例年とは異なり気温の低い日が続いたこともあって、全山見事なまでに赤く染まったここ定山渓ホテルミリオーネで10月15日第14回臥牛会総会が開催されました。

参加者会員26名夫人11名の37名、総会は副会長の長沢正徳君の歓迎挨拶で始まり、ついでこの一年間に故人となった5君の（森 泰H14. 11. 12・平尾和男H15. 1. 22・辻 修H15. 1. 29・所田真吾H15. 4. 1・日景善右エ門H15. 4. 3）報告があり全員起立して黙祷、物故教官物故会員のご冥福をお祈りしました。

続いて宮崎一郎会長挨拶、直ちに議案審議に入り事務局長田畠 収君が決算収支報告説明されこれを承認、そして現役員が続いて親任されました。

また2年後の開催地及び時期について討議され、次回は多くの会員が喜寿を迎えることでもあり、更に有意義なよりよい大会を開催すべきである意見続出、総会は年齢を感じさせないエネルギーの様子溢れおりました。

このため予定された総会1時間の持時間も超過、後日本部に持ち帰り内容検討決定することになりました。

続いて懇親会。開催地幹事大滝豊太郎君の開会挨拶、同代表幹事佐藤 信君より歓迎の挨拶の後、遠来出席宮崎昭雄君の祝杯音頭で開宴されました。

司会大滝君のウイットに富んだ運び、更にビンゴゲームで一喜一憂、また各所にて完全に学生時代の様相にかえった交流が甦り、本当にそれは楽しい2時間を過ごしました。

最後に全員で校歌を、そしてスクラム組んで逍遙歌を合唱し青春時代に戻って懇親会を終了いたしました。

余韻はまだ続き、別室で二次会を行いましたが多くの会員が参加、終戦直後の話題は尽ず更に盛り上がり、5時から始まった会も10時半にようや

くその幕を降ろし、その後連れ立って温泉につかり一日を終えました。

翌日10時に次回の元気な再会を堅く誓い合い、ホテルの仕立てたバスで帰路につき第14回臥牛会札幌定山渓大会を終了いたしました。

札幌在住の世話幹事一同、北林君を中心に準備に当たりましたが、至らぬ点も何かとあったのではないかと思いますが、皆様のご協力によりこんなに楽しい会となりました。出席者に厚く感謝申し上げ報告と致します。



(出席者氏名)

(1類) 荒木道雄・八重子 栗山英弥・郁子  
高橋 大・洋子 長沢正徳・とみ  
湊 敦雄・弘子 岩崎恒治 大川昭三  
瀬川二夫 高井英一 直江光昭  
野畠順二 宮崎昭雄 福家 忠  
(2類) 北林 浩・静江 志田仁男・雅美  
田畠 収・玲子 日野輝男・律子  
宮崎一郎・良子 宮本栄昭・弘子  
井戸二郎 井原 肇 大滝豊太郎  
大沼良明 佐藤 信 中村 仁  
藤本俊彦

※ 出席者一同よりのメッセージ

今回このように盛大で楽しい会を終えることが出来ましたことも、みな札幌在住の会員皆様のお陰と厚くお礼を申しあげます。

~~~~~  
**北水同窓会  
大阪府支部講演会総会および懇親会**  
川邊 一郎 (平3ゾ)

~~~~~

報告が大変遅れて申し訳ございません。親潮に告知案内をだしていただきました折りには大変お世話になりました。2年に1回開かれている大阪府支部総会が昨年2002年10月26日で前回と同じ大阪市北区の中之島センタービル31階、トップラウンジ31で開催されました。その件を報告させていただきます。当日は、昭和20年増殖卒の友近忠夫先輩から下は平成14年卒の藤原ひとみさんまで約70人が出席しました。支部総会では毎回興味深い講演会が開催されますが、今回も横浜冷凍(株)の上野洋先輩(40ギ)から、「物流の変貌とその将来の動向について」という演題で講演を頂き参加者は物流についての知識を深めまた大いに刺激を受けました。上野先輩ははじめに、同社の概要、昨今の物流の動きとして保管型倉庫から利便性を改善した流通加工業務まで加えた倉庫となってきたといった動向、国際港湾整備が早急に必要であること、効率的な物流システムの推進などを話されました。また、冷蔵倉庫業の沿革、現在の課題からみた問題解決と今後の方向性、収支環境、将来のポイント、さらには特別に入手されたという今後の経済見通しまで幅広くお話をされました。

講演会の後に行われた今回の総会ではこれまで支部長だった藤井 明先輩(38セ)、副支部長だった吉川圭一先輩(44ギ)が顧問となり、新たに入江和彦支部幹事長が支部長に、また、岡本洋一支部会計および北出弘支部幹事が副支部長に選任されました。藤井前支部長は退任にあたって、「他学部(の同窓会)に率先して若返りを図り、役員の改選をしたい」と挨拶、入江支部長は「若人、女性を含め、強力な支部活動を行っていきたい」と抱負を述べられました。次いで部屋を移して、新事務局長に就任した中田邦彦氏(61食)の司会で懇親会が行われました。はじめに来賓としてエルム会の阿澄昌夫氏(28農水)、横浜冷凍(株)の金澤時夫氏(49ギ)が紹介され、吉川前副支部長の

乾杯の音頭で懇親に入りました。アトラクションとして堀越光晴君(平8ギ)らにより、ビンゴゲームも行われ、会は盛りあがりました。最後には会場の皆で肩を組み水産放浪歌を高らかに歌い、北出氏によりエールがきられ、会は閉会となりました。なお、友近忠夫先輩は今年5月15日に、平瀬正二先輩(25セ)は6月21日に逝去されました。これまで大阪支部の活動発展にご活躍されたことを記しお礼とともにご冥福をお祈りします。



~~~~~  
**北水会長崎支部例会報告**  
大坂 幸男 (63ゾ)

~~~~~

長崎支部例会が長崎市内で10月31日に行われ、当支部会員12名及び函館支部会員1名、合計13名の出席でした。今回も函館支部北山榮雄(34ギ)氏が本例会へ快く参加してくださいました。氏は青函連絡船大雪丸の元船長であり、市内で本船がホテルシップヴィクトリアとして営業している関係で、顧問として観光シーズンに来崎され、修学旅行生や宿泊客へ青函連絡船の歴史や船内の解説に従事されています。

今年の例会は「楽しく飲み、食う」という試みで、肩肘を張らずに参加できそうな「焼鳥屋」での開催でした。例会は恒例となりました支部旗の下に集合写真撮影の後、中部長次郎(17ギ)支部長の挨拶で始まりました。その後、生ビールのジョッキが運ばれ、岩見真一(17ギ)副支部長の乾杯のご発声を受け、飲みながら議事が進行すると

いうこれまでにない形式でした。会計報告の後、近況報告では、当支部の新しいメンバーとして大泉拓二（50ギ）さん、中村好和（51ゾ）さん、前野幸男（57ゾ）さん、横沢 康（平12ギ）さんが加わったことが発表されました。一方、開催案内をしても本人不在のため、郵便物が返送されることが数名の方々で生じていることの他、いつも欠かさず例会に参加してくださっている会員の方々が残念ながら体調や都合を理由に出席されていないこと等が報告されました。

料理はタチウオのたたき、アジ、ヒラス等の刺身の盛り合わせ、アマダイのチリソース、アサリバター、サザエの壺焼き、アナゴの天ぷら等地元の魚料理を中心に、もちろん焼鳥も加えながら、テーブルに乗りきれないほどのたくさんの皿が並びました。飲み物は、焼鳥屋の大将の計らいにより、急遽、全銘柄飲み放題となり、それぞれが好みの地酒やプレミアム焼酎を注文することができました。宴は次第に盛り上がり、緊張もほぐれ、盛会となりましたが、予定時間はるかに過ぎ、最後は恒例となりました新メンバーによる「締め」を大泉拓二（60ギ）さんに行って頂き、今年度の例会は幕を閉じました。

このように長崎支部では毎年10月に例会を行っています。長崎県内にお住いの方で支部から連絡のない方、近県にお住いで当支部の例会に参加してくださるご意志のある方、当支部ではそんな皆様をお待ちいたしております。お気軽に大坂（63ゾ）までご一報下さい、大歓迎です。

#### [参加支部同窓生]

長崎支部：中部長次郎（17ギ）、岩見真一（17ギ）、



阿部茂夫（22ギ）、大滝英夫（23ギ）、西ノ首豪陽（38特専）、大泉拓二（60ギ）、中村好和（51ゾ）、渡邊康憲（51化）、征矢野清（61ゾ）、大坂幸男（63ゾ）、鈴木健吾（平3ギ）、横沢 康（平12ギ）、函館支部：北山榮雄（34ギ）

連絡先（会計幹事）：大坂 幸男（63ゾ）、西海区水産研究所（095-860-1600）

---

## 昭和38年卒増殖学科同期会

川西 健吾（38ゾ）

---

10月26・27日、昭和38年3月卒増殖学科同期会が卒業40周年を記念して開かれた。26日は、懇親会を函館湯の川温泉で行い、翌27日は港町の水産学部を見学した。

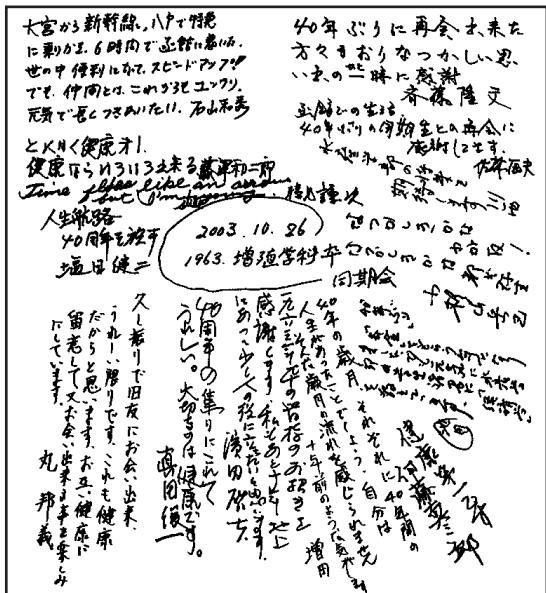
懇親会には、函館在住の元発生学講座の濱田啓吉先生をお迎えし、卒業生35名中14名の参加をみた。

まず、記念写真を写した後、勝見謙次氏の司会で始まり、濱田先生の挨拶の後、真田俊一氏の乾杯の音頭で会が始められた。本州からも3名の出席があり、40年ぶりで会う人、時々あっている人など様々であり、それぞれ現在の近況を語り合い、楽しい夕べとなった。

この後、一つの部屋に全員が集まり、二次会が始まった。これは、一次会を上回る盛り上がりをみせ、水産の話から、世界や日本経済の話など天下国家を語り合いながら午前一時ごろまで久しぶりの旧交を深めた。

翌日は、二日酔いの顔で、水産学部を訪ね、同大学の斉藤さんと志賀さんの案内で約一時間半、学内を見学させてもらった。施設も我々のいたときとは異なり、通信衛星を使った設備や、大きく変わった講座の編成などを見たり、聞いたりした。また、それ違う学生の顔や姿も昔の野暮ったいのと違って、スマートな学生が多くなった。これも時代の移り変わりといえようか、詳しく説明し、案内してくれた斉藤さんや志賀さん、同窓会の方々に感謝したい。

還暦も過ぎ、人生も終盤にさしかかってきているが、まだまだ衰えないパワーを感じさせた同期会であった。



## 34年卒の同期会報告

米田 義昭 (34七)

昨年10月9日に昭和34年（1959年）卒の同期会が湯川の旅館「丸仙」で行なわれた。当日、南は佐賀県から北は紋別市に至る全国各地より27名の同期生が集った。学部を卒業してから早や44年の年月が過ぎた。卒業以来はじめて、或いは久しぶりの参加者もいて顔と名前が一致せず、「誰だつ

たかなあ」と思いながらもぶかしげな挨拶で心もとなかったが、一度思い出すや、長い間のブランクが消し飛んでしまった。

会宴に先立ち、2年前札幌で行われた同期会の後に亡くなった宇高、荒木（富男）、須賀、太田の4君に対し黙祷を捧げた。澤田幹事長より歓迎の挨拶と経過報告の後、今回最も遠方から駆けつけた永田君が乾杯の音頭をとて宴に入った。宴もたけなわとなった頃、参加者全員より近況報告があった。「年々歳々花相似たり、歳々年々同じからず」という言葉の通り、40年の歳月が過ぎた今、同期生それぞれの人生が短い言葉に凝縮されているように感じられた。宴もたけなわとなり、飲むほどに酔うほどに時の流れは完全にタイムスリップして学生時代に戻り、今では許してもらえそうもない無茶な寮生活の武勇の数々が昨日の事のように蘇った。また、同期の在日朝鮮人の崔君や李君の帰国後の消息など夜の耽るのも忘れた。一次会がお開きに近づくと話題は次は何時・何処でという事になった。東京、関西でという話も出たが、再来年（平成17年）は札幌でという雰囲気が濃厚となり、札幌の伊藤尚人君が「よし引き受けた」という一声で衆議一決、真にありがたいバトンタッチとなった。しめくくりは旅館中に響き渡る「逍遙歌」を歌い、締めは次回開催地「札幌」を代表して伊藤君の音頭で乾杯した。

今回は体調思わしくなく断念した者も多かったが、次回は捲土重来、元気になって是非参加してほしい。話の続きは次回に持ち越し、再開の楽しみにしよう。

記念写真は藤原君より贈られた横断幕の下で写



した。同君は根室市長の要職にあり、今回用務のため出席できなかつたが、この幕は今後も同期会の度に会場に飾られるだろう。

今回函館開催ということで北水同窓会本部よりビールが寄贈された。最後になりましたが同期会一同に代わり心よりお礼申し上げます。

## — ◇ 追 悼 ◇ —

### 石黒正敏兄の訃報

青木 義博 (42才)

平成14年の暮れに一通の喪中ハガキが我が家に舞い込んで来ました。それは大学時代の同級生石黒正敏兄が平成14年5月24日に永眠したとの事でした。「しまった！！」と思いました。

前年の7月に頂いた彼からの暑中見舞いに同年6月に肝臓の手術を受け、札幌の自宅にて療養中の事でした。励ましの手紙なり電話でもしておけば良かったと後悔した次第です。

早速 奥様の文子さんにお悔やみを申し上げ彼の思い出等について懐かしくお話をさせて頂きました。

昭和38年に北大に入学し教養学部時代に授業を終えるとクラーク会館に向かって群れをなして歩く中で、ガッチャリした体格に日に焼けた学生服を窮屈そうに着ている後姿に声をかけると、人なつっこくちょっと奥目の浅黒い顔がニコッと笑う兄貴分的な感じがとても印象的でした。

岩見沢出身の彼は親・兄弟思いの長男との事で、面倒見の良いことが話題の端はしで伺われ、尊敬の念すら抱いたものです。

学部に移って学科は違いましたが、私の勧めで彼を勧誘しクラブ活動の自動車部では一緒に、道内一周のラリーに出掛け、知床の入り口斜里町の私の実家に大勢皆で泊まって貰つたのも今となれば楽しい思い出です。

社会人になっても埼玉で団地住まいの私の家に来て貰つたり、札幌で挙げた文子さんとの結婚式

に出席し、夜遅くまで、「彼を寝かせない！」とか言って、新婚さんのホテルに悪友達に入れ替わり立ち代り、冷やかしの電話を入れた悪ふざけにも気良く対応してくれ、こちらが恐縮してしまう程でした。

又、新橋の居酒屋で飲み交わしたのも、ついこないだの事のようです。

ヤンチャ的で勢いばかりの私に比して、いつも冷静で大人であった彼の死はとても残念で堪りません。

ご冥福を祈り合掌

### 笹野正人君 (22才) 追悼

大山 公男 (22才)

平成15年6月1日、紳士笹野正人君逝く。昨年10月の同期会に、いつものようご夫婦揃って参會された姿を偲び、世は正に無情なりを痛感す。

私が昭和20年の終戦による軍学校からの転進で、他の数名と共に母校漁業科二学年に編入許可されたのがその年11月。そして已に在学中の笹野君を知るのだが、22年の卒業までの期間は短く特に親しかったわけでもない。只、卒業しても社会人になる自信のない者10余名が、4月より旧制遠漁7期生として再勉強することになるが、12月の座学終了までの間に、同君とはおしょろ丸乗船実習ー我がクラスは漁3学年時にも乗船実習を経験ーでは同室となり当直実習は同グループ、実習終了後からの寮生活も5名での同室と続く中で、極めてGentleな存在として一目をおくようになった。

翌23年1月からは社船乗船履歴1ヶ年取得のため校門を後に各地に散った。当時の制度として甲種二等航海士の海技免状筆記試験免除資格を得るのが目的で、遠漁卒業の必須条件でもある。私は大洋漁業三崎営業所所属の鮪船に乗船していた。

そしていつのことだったか記憶が薄れたが、全く偶然にも三崎港岸壁に繫留中の他県籍の鮪船上に、Gentle笹野君を見つけ「まさか環境厳しい鮪船に」と非常に驚くことになる。やはり同君はそ

の後転船して所定1年の乗船履歴を重ねて卒業したように聞いているが、その時しばし言葉を交わしての別離以来、再会は昭和60年神戸での第2回目の38期同期会で実に38年ぶりであった。

我々の同期会は地域ブロック持ち回りで毎年開催されており、同君と私は殆ど皆勤であるので、その後は再会再々会を続けて来たが、今年の20回目の会には元気な顔を見ることが出来なかった。

昨年12月始め以降今年6月末にかけ、7ヶ月間に幽名境を異にした朋友は7名の多きに上る。残念ながら笛野君がその仲間に含まれてしまった。不謹慎ながら乱暴な表現を許して貰えるならば、残った我々の向こうを張って、この7名も天国で賑やかに同期会を開いたのではないかと思う。

合掌

(平成15年11月記)

と思います。もともと積極進取の県民性もあり、八女中学から文字通り笈を背負い、ふたつの海峡を渡り、3日がかりで札幌の漁撈へ学んだのであります。

卒業と同時に下関に本社を置く林兼商店へ入社された。そして果せるかな入社2年目にメキシコ湾におけるエビの冷凍買付事業に参画され、長途冷凍船に乗船し無事大任を果たされたことは燐として社史に輝いております。そのことが後日、青森を根據とする北海道さば巻網船団の責任者として活躍され、見事に成功をおさめることになるのであります。

いつも飾り気のない穂栗頭で、わたしが遠漁の社船実習生として、初めて徳丸さんの警咳に接したのは、昭和18年11月11日。船員手帳を取得し播州丸に実習生として雇入したのですが、奇しくもこの日は、後日知遇を得る世界フライ級チャンピオン白井義男が帝拳ジムに入門した日と重なり、共に人生のスタートを切った日だ、と談りあつたものです。

爾来60年、徳丸さんには公私にわたりご高庇をいただいたが、実に温厚な人柄に加え包容力のある方でした。船舶部長として数10隻の社船運航の掌にあたられ、航海士さらには船長になる後輩を育成され、そして愛情こめたご薰陶をいただいた者は十指に余る。

定年で関係会社日新タンカーの社長に就任されたら、頭髪を見事73に梳り、そして自動車免許を取得され愛車を駆り、88歳まで令夫人とドライブを楽しむ人も羨む鶯鶯夫婦でした。

長く職場のあった下関の地を故郷菊鹿に移されてからは、晴耕雨読、広い庭の手入に余念ない清遊でしたが、不慮の事故がもとで長逝されたことは、日頃こころから畏敬していた先輩を喪っただけに、悲しみは格別なものであります。

茲に謹んで故人から恩情いただいた後輩一同に代わり冥福を祈りあげ、あわせて感謝の誠を捧げる次第であります。

合掌

### マルハOBの先達 徳丸 潮さん(10ギ)長逝せらる 窪田 光信(17ギ)



徳丸さんは昨年6月上旬、転倒による頭部負傷で緊急入院された。外見は出血も少なかったので安堵したが、すでに脳内出血しており、加えて高齢のため体力が抗しきれず、1か月に及ぶ愛妻タニ令夫人の不眠不休の懸命の看護も空しく、残念ながら平成15年7月6日、89歳の生涯の幕を静かに閉じられたのであります。あと1ヶ月後の8月20日で90歳の卒寿のお祝いを迎える、というのに本当に胸づれ惜しまれなりません。こころから哀悼の意を表する次第であります。

徳丸さんは天草熊本県の山紫水明、緑葉映えるお茶の里、菊鹿のご出身ですが、海原の巨きな流れの潮たれ、との願いをこめ潮と命名されたもの

## 檜山萬里君（38エ）の急逝を悼む。

花村 勉巳（38エ）

平成15年も残り少なくなった11月18日（火）の昼頃、吉永孝一君（38エ）より電話で檜山君逝去の知らせを受けました。11月16日（日）の朝、脳梗塞で急逝され、17、18日の両日ご遺族と会社関係者だけで通夜、告別式がとり行われましたが、後日改めて偲ぶ会を行う予定のことでした。享年63歳でした。

私は11月12日に彼とメールの交換をしたばかりでした。今にして思うと彼にしてはちょっと弱気な内容だなと心の隅にひっかかってはいたものの、その4日後にまさかこんなことになろうとは夢にも思っていませんでした。ここ10年近くにわたって、38・39年卒業生有志の忘年会は檜山君が召集をかけ、築地界隈で行うのを常としていただけに、知らせを受けた仲間達にとっても、正に晴天の霹靂であったと思います。

彼は平成12年の秋、南米に出張した際に軽い脳梗塞にかかり、一時治療に専念しておりましたが、なんとか快復して仕事に復帰しておりました。その後、永年勤めた会社を退職して新しい会社を設立、オーナー経営者になりましたが、この不景気のさなかで、その心労は大変なものであったと思います。彼の性格からしてついつい頑張りすぎたのではないかでしょうか。

私たちが函館の七重浜で遠洋漁業を学んだ昭和30年代頃は北洋漁業の最盛期でした。春の連休が終わり桜の花が散る頃には、函館港から北洋鮓鱈の大船団が続々と出て行きました。トロール船や鮪船も遠く大西洋まで展開し始め、物は充分でなかったが夢に溢れた時代でした。檜山君は野球部のキャプテンを務めたスポーツマンでした。船にも滅法強く、遠洋航海実習では大時化の中でも、船酔に苦しむ我々を後目に、いつも泰然としていた姿が目に浮かびます。

卒業とともに仲間の多くが海上勤務に就きましたが、檜山君は思う処があつてか流通業界への途を選び、神戸に本社を持つ兵庫県合同食品株式会

社（現合食）に就職しました。学校で学んだ漁業の知識を流通に持ち込んで、積極的に改革に取り組んだことや、持ち前の頑張りが認められて頭角を現し、会社の発展に大きく貢献したと聞いております。彼が進めた九州産にぼしの買付け、インドネシアでのチリメン事業、韓国からの小女子（コオナゴ）の買付けは当時、業界でも大きな注目をあびたとのことです。

平成14年に（株）合食を常務取締役で退職した時、当然引退して、私達のように余暇を持てます遊び仲間がまた一人増えるなと思ったものです。ところが彼は新しい会社を立ち上げると言う。二年前の南米出張以来、健康が優れないと聞いていましたので、無理はしない方がいいぞと皆で忠告しましたが「俺から仕事を取ったら何も残らない。俺は一生仕事を続けるよ」と笑って答えていました。

その後僅か半年後には株式会社檜を設立し、オーナー経営者として中央区新富町の事務所で奥様と一緒に仕事をする彼は本当に嬉しそうでした。会社関係者の話では、亡くなる前日迄仕事の打ち合わせをして、それでは来週月曜日に会おうと元気に退社していたとのことですから、彼の言葉通り、正に一生仕事に燃え続けた、充実した人生であったと思います。

檜山家、（株）檜が主催する「偲ぶ会」は12月6日11時より月島の中央区立セレモニーホールで取引先、友人等、大勢参列のもとに取り行なわれました。読経、取引先と友人代表による弔辞、ご焼香に続いて会食に移りました。ご遺族は夫人と二人のご子息が出席され、年若いご長男がけなげにもご遺族、会社を代表してご挨拶されました。

偲ぶ会は午後二時頃終わりましたが、その後、坂本浩輔君（39エ）が代表を勤める築地のKK海明インターナショナルの事務所に場所を換え、改めて同窓有志だけで集まりました。参加者は坂本浩輔（39エ）、吉永孝一、大野善郎、寺内義雄、花村勉巳（以上38エ）、苗村隆（38ギ）、石山和秀（38ゾ）、田中良知（38セ）、柴田勇夫（39ゾ）、そしてはるばる仙台から駆けつけた西村典恭（38エ）の10名。檜山君の思い出話に花が咲き、気がつくと時計は午後6時をまわっており、冬の日は

すでに落ちて外は真っ暗。場所を提供してくれた坂本君に感謝しつつ散会としました。

檜山君、君が気についていたであろう忘年会は、このような、思いもかけないかたちで行われたよ。今年もやはり君が主役だったよ。天国に在ってどうか安らかに眠ってください。

合 掌

---

### 昭和39年入学の 林 昭八君(43化)・野崎義行(44化) の死を悼む

四方 純 (43食)

---

昭和39年に入学し、製造学科あらため新しく発足した水産化学科に進学した林 昭八君と野崎義行君が幽境を異にすることになってしまった。

東京の試験場にて受験し、未知の北海道に夢を託した両君の活躍をたどりつつ、謹んでご冥福を祈り、追悼したい。



・林 昭八君  
平成14年4月27日逝去（S状結腸癌）。享年58。

鹿児島県玉竜高校出身の薩摩隼人。終生鹿児島訛りは抜けきらず。

教養部時代は恵廻寮住まい。同寮は間仕切りなしの5人部屋で各部屋がサークル制になっており、当時は部屋討論とか寮生大会が深夜まで頻繁におこなわれ、学生運動のセクト間のせめぎ合いの場でもあったが、彼はどちらかと言えばノンポリ派。半年毎に部屋替えがあり「ロシア語研究会」「レコード管理委員会」などに属す。生来絵心があり武島武郎らが創った伝統ある「黒百合会」に入会し創作活動に励む一方、クラシック音楽も好み狸小路の「ウイーン」にもよく出没。専門課程への進学は誕生間もない新任の三木教授率いる水産化学科の化学工学講座

を選択。函館移動後は寮を離れ下宿生活。

就職は教授の推奨もありエッソスタンダード石油（株）。彼が大阪支社時代、一緒に京都を散策した記憶がよみがえる。昭和47年京都育ちの博子夫人と京都で挙式。大阪勤務のあと48年以降ずっと東京赤坂の本社にて技術畠のエキスパートとして活躍。その傍絵画活動も精力的にこなし、二科展にも何度か入選した本格派。画風も具象画からアブストラクトへ方向転換。最後の個展となった平成12年12月22日寒風のなか銀座「レンガ亭」近くの画廊で熊谷克彦君（43食）、森 輝夫君（44工学部）、後で述べる野崎義行君（44化）と一緒に行き談笑したのが彼との最後となった。その後、彼はニューヨークにアトリエを設けて日米を往復しながら創作活動することを決意、平成13年の9・11があるもその11月に渡米（フライト客2名）しアトリエを手当て。平成14年4月には次回の個展をいつもの銀座で開催する準備をすすめ、とくに次回は9・11に多数犠牲となった消防士に捧げる「最後の青空」と題したオブジェを100枚以上一気に書き上げるも、結果的にこれが遺作となり個展も幻となってしまう。翌平成14年の1月、どうも食の通りがよくないということで近くにある横浜の昭和大学北部病院で検査したところS状結腸癌と告知される。が、4月の個展、NYでのアトリエ生活の夢に向けて何としても克服するぞという強い意思のもと、東京大塚の癌研に転院し、抗癌剤治療もすんで受け入れるも病状は急速に悪化し、肝臓ほかにも転移、あっと言う間に4月27日息を引きとる。子供さんは尚子さん（30歳）、延輝君（28歳）のお二人。近くにお住まいのご長女のお子さん（4歳）をことのほか可愛いがっていた。

ご連絡先 〒224-0001  
横浜市都筑区中川1-2-F1001  
林 博子様 TEL.045(911)9845



・野崎義行君

平成15年1月4日逝去（解離性大動脈瘤破裂）。享年56。

三重県四日市高校出身。高校時代は卓球でインターハイにも出場し、教養部時代は探検部に属しながら卓球の試合に狩り出されたことも。幼い頃より、バイオリンもたしなんだマルチ人間。後の東大教授も教養部時代、人文科学系の単位をギリギリしか選択していなかったので「人類学」一教科のため、1年ドッペルこととなる。

専門課程は水産化学科で、卒論は西村教授・角階講師の分析化学講座に進学。

函館では新しくなった亀田町の北晨寮410号室の住人となる。私も同じ階の404号室。隣り近所のよしみでよく往き来し、お互にベッドに腰かけながらト里斯やハイニッカ前にちびりちびりやりながら青臭い議論を交わしたり、五稜郭公園近くの喫茶店「古城」や可愛いメッッシェンのいた松風町のスナックによく出かけたもの。

その後、彼は学問の道をばく進、修士・博士課程へと順調に進み昭和49年水産学博士の学位を授与される。同年秋フク子夫人と結婚し直ちに渡米。

名門エール大学地質・地球物理学部のトレキアン教授の研究室で4年間、さらに昭和53年から2年間ウッズホール海洋研究所で研究生活。アメリカでの研究成果が評価され東京大学の海洋研究所から招聘され、昭和54年同研究所無機化学部門の助教授に就任し、平成4年教授となる。昭和52年、天然放射性核種による大気・海洋・堆積物間の物質移動の研究成果により日本海洋学会岡田賞を受賞したのをはじめ、平成10年には日本海洋学会賞、平成13年には日本地球化学会賞を受賞。彼が作成した海水元素組成の鉛直分布の周期律表は世界中の海洋研究教育に用いられている（東大洋研「ニュースレター」）。著書に「地球温暖化と海」（東大出版会）がある。

近年、彼は浦安市、私は千葉市とJR京葉線沿いに住むこともあり、同期の連中を中心に酒を飲

んだりゴルフをする機会がふえていた。彼の飲みっぷりは豪快で滅法強く、飲めば飲むほど陽気におしゃべりになる楽しいお酒であった。ある時は有楽町の道産子料理店であったり、居酒屋であったり、ビヤホールであった。

とりわけ最近はゴルフと一緒にすることが多く年に4・5回はプレー。以前は少しハンディがあったがホームコースでメキメキ腕を上げ、このところはスクランチで握っていた。亡くなる5日前の平成14年12月30日、13名の同窓と定例のゴルフコンペをおこない彼が堂々の優勝。その余勢をかって、そのコンペの帰途車のなかで同期4人で衆議一決ゴルフ場へ携帯で平成15年1月1日の電話予約をし、元旦もプレーしたばかりであった。それだけに計報を聞いた時はびっくり。取るものも取りあえずお宅に駆けこんだ次第。お正月休み昼間家族揃って居間でくつろいでいる時の突然の出来事だった。平成8年オーストラリア出張時、心臓異常を起こし手術していることもあり、元旦に車中でその後のケアのことをたまたま話したが血圧さえチェックしておけば全然問題ない言っていたのだが……。

通夜・葬儀には沢山の仲間が揃ってお別れしたが、あまりにも突然で早い旅立ちであった。お父さんは早く亡くなり、お母さんの手一つで育てられたが、93歳のお母さんを平成14年6月に見送つてからのことであった。

お子さんは、ともにアメリカ生まれの丸安君（28歳）とまささん（26歳）。

ご長男はアメリカでビジネスマンとして活躍中。

ご連絡先 〒279-0042

千葉県浦安市東野3-37-11

野崎フク子様 TEL 047(354)4319

## 会員死亡通知

島 六郎 (11セ) 不明  
荒木英二様 (14ギ) より  
斎藤瑠衣子(平12資) 不明  
応用生物科学講座より  
古宅 三郎 (19セ) 平成12年1月17日 逝去  
濱田啓吉様 (19ゾ) より  
安斎 甫(大12セ) 平成13年6月28日 逝去  
ご家族様より  
宇高 徳郎 (34セ) 平成13年7月16日 逝去  
ご家族様より  
石黒 正敏 (42ゾ) 平成14年5月24日 逝去  
青木義博様 (42ゾ) より  
新妻 崑義 (14ヨ) 平成14年10月26日 逝去  
ご家族様より  
高田 和 (16ヨ) 平成14年12月24日 逝去  
山田 正様 (16ヨ) より  
高間 貞敏 (23ゾ) 平成15年2月26日 逝去  
高間浩蔵様 (35セ) より  
日景善右エ門 (24セ) 平成15年4月3日 逝去  
伊原 肇様 (24セ) より  
宮崎 貞雄 (20セ) 平成15年5月13日 逝去  
宮崎昭雄様 (24セ) より  
荒木 武人(平9ギ) 平成15年8月11日 逝去  
石田 真様 (48ギ) より  
小野寺長二 (19セ) 平成15年6月14日 逝去  
ご家族様より  
高砂 正男 (22セ) 平成15年6月24日 逝去  
ご家族様より  
池田 和彦 (25セ) 平成15年6月25日 逝去  
ご家族様より  
工藤 弥一 (13セ) 平成15年6月29日 逝去  
佐藤正五様 (13ギ) より  
前木 誠 (15セ) 平成15年7月4日 逝去  
ご家族様より  
徳丸 潮 (10ギ) 平成15年7月6日 逝去  
ご家族様より  
中野 恵造 (19ギ) 平成15年8月19日 逝去  
ご家族様より

金森 潔 (16セ)	平成15年11月3日 逝去
ご家族様より	
小林 國美 (33エ)	平成15年11月4日 逝去
島崎健二様 (33エ) より	
檜山 萬里 (38エ)	平成15年11月16日 逝去
安間 元様 (38エ) より	
石川 宣次 (26セ)	平成15年12月8日 逝去
徳永俊夫様 (26セ) より	
青沼 厳 (26ゾ)	平成15年12月9日 逝去
土田健治様 (35ゾ) より	

## - ◆ ご案内 ◆ -

## 新刊書の案内「スルメイカの世界」

桜井 泰憲 (48ゾ)

平成15年12月に、「スルメイカの世界—資源・漁業・利用—」が出版されました。内容は、もっともなじみのあるイカ、スルメイカの釣り漁業と加工業の展開、生態と資源管理、漁業生産システム、加工技術と漁獲物の有効利用、流通、さらに韓国・中国・台湾のイカ釣り漁業まで、最新の情報が掲載されています。おそらく、スルメイカの資源・漁業・加工、そして韓国・中国・台湾の漁業と生産の現状を知る上では、最適かと思います。この出版に先立つ5年前の1998年9月26日に、函館の北大水産学部を会場として、平成10年度日本水産学会秋季大会シンポジウム「スルメイカの資源・漁業・利用」が開催されました。この時のシンポジウムの評価が高く、ぜひ出版しようとの熱意のもとに、ようやく出版の運びとなりました。執筆者は16名が各専門分野を紹介しており、そのうちの6名が同窓生です。桜井 (44ゾ) が「スルメイカの再生産と資源変動」、中村好和氏 (51ゾ) が「イカ類の資源評価と管理」、稻田博史氏 (60博漁) が「イカを釣る技術とシステムの開発」、見上隆克氏 (41ギ) が「船上作業の省力化・自動化と最適化」、高橋是太郎氏 (50食) が「漁獲物

の有効利用」、そして1999年1月に逝去されました傳恩波さん（平3博漁）が「中国のイカ釣り漁業—現状と今後の展望」を担当し、内容もシンポジウム以後の最新の情報を加えています。表紙の絵は、函館在住の版画家・平方亮三氏に、イカ墨を使用してスルメイカを描いていただきました。

スルメイカは、好漁・不漁を繰り返してきましたが、平成元年以降は日韓あわせた漁獲量は40-70万トンと中・豊漁で推移しています。しかし、これはあくまでも日韓合計の漁獲量で、時には日本の漁獲量を韓国が上回る年が多くなっています。かつて、昭和40年代の不漁期には、北太平洋のアカイカ、ニュージーランドのスルメイカ、カナダ、アルゼンチンのマツイカを追って日本のイカ漁船が世界の海を凌駕していました。その後の200海里時代に入って、アカイカ流し網の中止、各国経済水域での操業制限など、歴史的変遷をとげています。現在では、加工用イカ類が中国・韓国・台湾から逆輸入している時代になっています。同窓の方の中には、イカにかかわっている方もいるかと思います。ぜひご一読いただければ幸いです。

成山堂書店

4,400円+消費税 (ISBN4-425-88121-4)



## 第64期「卒業30周年記念同窓会」のお知らせ

本会を以下のように開催いたします。多くの方々のご参集をお願い致します。

対象：第64期（昭和49年卒）の全学科同期生

日 時：平成16年11月20日（土）

場 所：函館湯川温泉

連絡先：

函館 吉野 威

Tel : 0138-32-7327

E-mail : f-yoshi@msl.ncv.ne.jp

東京 高津 敏

Tel : 03-5800-4787

E-mail : takatsu@wis-x.co.jp

品川高儀

Tel : 03-5440-1852

E-mail : shinagawa@janus.co.jp

## - ◆ 学内ニュース ◆ -

### 学位取得者と論文題目

[北海道大学博士（水産科学）H15.9.25]

#### 課程博士

森田 昌子：Growth, abundance and maturity of Pacific salmon in the central North Pacific Ocean. (中部北太平洋におけるサケ属魚類の成長・豊度及び成熟に関する研究)

浅見 大樹：網走湖産ワカサギ (*Hypomesus nipponensis*) の初期生活に関する生態学的研究

大久保信幸：Studies of the impacts of environmental estrogens on marine fish: measurement of serum vitellogenins in the male Japanese common goby (*Acanthogobius flavimaculatus*). (マハゼビテロジェニンを指標とした環境エストロジェンの海産魚への影響評価に関する研

北水同窓会 親潮 第282号

平成 16. 2. 27

究)

楠田 智：魚類の精子および胚細胞の凍結保存  
に関する研究

〔北海道大学博士（水産科学）H15. 12. 25〕

論文博士

マイケル ポウル ユキオ セキ：Physical  
characterization of and biological  
responses at large- and meso-scale  
oceanographic phenomena in the  
Subtropical North Pacific. (北太平洋  
亜熱帯海域における大・中規模スケ  
ールの海洋環境の物理特性と、それ  
に対する生物の応答)

上田 昌行：コンブ共販体制の構造変化に関する  
研究

中秋勝彦（52食）10/21、大西寛明（平12資）9/24、  
石ヶ守英樹（平12資）10/24、門田裕香（平15資）  
9月、三枝亜希子（平14資）11/8、佐藤暁之（平  
10食）12/12

資源計測学講座（旧漁業測器学講座）

堀内則孝（平8ギ）8/2、笛原英明（平4ギ）10/2、  
安部幸樹（平7ギ）11/7

水圈食糧科学講座（旧生化学講座）

船津保浩（62食）7/29、松原 久（58食）7/25、  
二木知美（平11食）8/6、坂本幸造（48食）8/12、  
早川和徳（平12食）8/13、國見 史（平15院）8/28、  
中村幸信（平15食）9/22、阪本正博（53食）9/10、  
武田浩郁（平8院）10/17、李 南赫（平3院）10/24、  
小野沢鉄彦（51食）11/14、伊藤 剛（62食）11/25、  
鳥貝 真（平3食）12/16

海洋環境科学講座（旧北洋研海洋環境部門）

河合理恵子（平14海）10/10

応用生物科学講座（旧高分子化学講座）

森 正美（51化）、太田智樹（61化）、太田隆男  
(48化)、澤野 亮（平7化）、福士暁彦（59化）、  
鈴木俊広（平11資）、竹谷裕平（平13資）、福田  
美樹（平13資）、池田正之（59化）

資源計測学講座（旧航海学講座）

宮村剛志（平12海）7/30、木和田広司（平12ギ）9/30、  
川村洋平（平10ギ）12/4

多様性生物学講座（旧浮遊生物学講座）

尾崎浩司（平6院）7/8、河村章人（37ゾ）7/9、8/4、  
9/3、10/17、10/23、浅見大樹（60ゾ）7/9-10、小  
山章夫（42ゾ）7/10、松山洋平（平15海）8/11、  
高橋純子（平13海）8/13、阪本之暢（平15海）  
8/30-9/1、天野勝三（54ゾ）9/4、雜賀 修（53ゾ）  
9/8、小島守之（42ゾ）10/17、坂井雄志（平8ゾ）  
10/18、町田建治（36ゾ）10/20、松尾淨平（36ゾ）  
10/20、阿蘇達郎（36ゾ）10/20、山塙勝美（36ゾ）  
10/20、篠 熙（元教官）10/22、山田雄一郎（平9

## 会員異動

（平成15年7月2日から12月31日）

辞 職

15. 9.30 松永 勝彦 環境生物資源科学専攻  
(特) 資源環境科学講座

## 有朋自遠方來不亦樂乎

（平成15年7月～平成15年12月）

（敬称略）

### 生物資源化学講座（旧化学工学講座）

古屋光大（平8化）7/17、横山 亨（平13資）7/22、  
赤嶺健一（61化）8/28、島村輝太郎（平12資）  
10/24

### 応用生物科学講座（旧微生物学講座）

武田美加子（旧姓 成田）（62食）11/14

### 応用生物科学講座（旧食品生化学講座）

鳥居美佳子（平10食）7/22、井上 明（平11食）8/14、  
後藤晋介（平5食）9/3、柄澤 馨（平7食）9/22、

ゾ) 12/1-5、木谷浩三 (47院) 12/12

**育種生物学講座（旧水産植物学講座）**

福原庸介 (平11生) 9/14、深谷利香子 (平9ゾ) 9/15、  
二村和視 (平10ゾ) 9/12-13、寺田竜太 (平5ゾ) 、  
松永 淳 (平14生) 8/2、長谷川 祐 (平14生) 12/13、  
宮澤憲弘 (平14生) 12/13

**資源計測学講座（旧漁具漁法学講座）**

毛利文彦 (平9ギ) 12/11

**資源生産生態学講座（旧漁場学講座）**

中島将利 (平2ギ) 8/10

**資源生産生態学講座（旧資源生物学講座）**

坪井潤一 (平13海) 11/14

### 表紙写真の説明

今号の表紙写真は、水産学部の水産資料館別館内の展示室です。

水産資料館は大学院水産科学研究科内に位置し、1958年に開館した本館、1982年に増設された別館、および1988年に旧北洋研究施設を改装・整備した水産生物標本館から構成されています。水産資料館は、水産関係資料、特に北方関係の実物・標本・模型・文献類を収集し、これらを整理・分類の上保管しています。また、教育研究用の資料目録・解説書を刊行し、国内外の研究者に当該データを提供するとともに、水産関係の知識を一般普及しています。資料展示は本館の三つの展示室と表紙写真の別館で行い、広く学生、市民に公開されています。

本館第一標本室は一部リニューアルし、ヤツメウナギ類、サメ・エイ類など約60点を大型アクリル水槽による展示に切り替えました。サメの歯などの小さな部位も観察でき、大変見やすいと好評を得ています。その他にも、シャークアタック（サメによる被害）の実状と、北大の研究者が発見した新種の魚類の一部を、新たにパネル展示してい

ます。また、軟体動物や海藻類の標本も陳列され、その中には世界的にも貴重な頭足類（タコ・イカの仲間）の標本が含まれています。本館第二標本室には、江戸時代から明治初期まで本州と北海道を往復した弁財船（和商船）、明治期に全国各地で使用された和船などの日本の漁船の発達を研究する上で貴重な資料である漁船模型をはじめ、網具模型、釣具模型など約2,500種6,000点を展示しています。本館第三標本室では、真珠、貝細工、鼈甲（べっこう）、缶詰などの水産加工製品、および水産増殖や海洋関係の写真、パネル、模型など約700種1,800点を展示しています。別館には、北大水産学部の歩みを示す関係資料、おしょろ丸、北星丸、うしお丸の水産学部練習船、潜水艇くろしお号などの模型や船舶関係資料、主として北方系の海鳥や海獣類の剥製・骨格を展示しています。なかでも、全長約15mのニタリクジラの完全骨格標本は学術的価値が高く、日本では唯一のものです。また、巨大なトドの剥製も圧巻です。水産生物標本館は一般公開はされていませんが、分類の基準となる模式標本約750点を含む18万点を越える世界屈指の魚類標本の他、軟体動物、甲殻類、プランクトン標本などが管理・保存されており、学内の教官・学生はもとより、国内外の研究者に利用されています。

また、水産資料館では昨年の5月から10までの毎月第3土曜日に小学校高学年から中学生を対象としたミニレクチャーを始めました。講師は大学院水産科学研究科の教官で、水生生物と水産科



一部リニューアルした水産資料館本館第一標本室

学への興味・関心を深めることを目的とした優しい内容の講演を行い、大変好評でした。この企画は今年もさらに充実させて続けるよう計画しております。

### 《編集後記》

平成15年度の「親潮」第2号（通算282号）をお届けします。今回、初めて編集を担当し、不手際が多々あり、特にご投稿いただいた大園雍彦氏（31セ）の寄稿を今号に掲載することができなかったことを深くお詫び致します。次号に掲載するよう準備致します。平成16度第1号の原稿締め切りは平成16年7月15日を予定しております。会員の皆様には「親潮」に多くの原稿をお寄せいただくようお願い致します。

本年度から北水同窓会ホームページを開設し、ホームページにも「親潮」を掲載しておりますので、そちらもご覧下さい。

（編集幹事 矢部 衛）

#### 親潮投稿規定

1. 掲載文の種類と文字数などの制限
  - (1) 会員の受賞：本文880字以内
  - (2) 寄 稿：本文5,280字以内  
なお、この制限以上の長文あるいは連載希望の寄稿文について  
は3号分までとする。
  - (3) 支部・会員だより：本文1,760字以内  
なお、弔文については代表者一名に限る。
  - (4) ご 案 内：本文880字以内
  - (5) そ の 他：掲載の可否および文字数の制限  
については編集部が決定する。

発 行 平成16年2月27日  
編 集 兼 中尾 繁・矢部 衛  
発 行 人 岸村 栄毅・宮澤 晴彦  
発 行 所 北海道大学水産学部北水同窓会  
(TEL/FAX 0138-42-3981)  
Eメールアドレス：hokusui@hotweb.or.jp  
印 刷 所 三秀印刷 TEL.23-6663 FAX.27-5135